

The social welfare in OSAKA



大阪の 社会福祉

2024年11月

834



社会福祉法 大阪市社会福祉協議会 <https://www.osaka-sishakyo.jp>



活動者・参加者が協力して作成 ～百歳体操弁天地域バージョン～



2・3面 特集

活動者の広げ方のススメ6

自分たちの活動として、より身近に感じてもらえるように

子どもは地域の共通の財産なんだから。

地域の町内会の元会長の葬儀に、地域内の小学校から転動した元教頭が参列していた▼この教頭はいう。子どものことは学校でできる限りのことはするけれど、学校は万能ではない。地域と学校が協力してこそ子どもの成長を支えることができる▼例えば、食事。貧困や家庭の生活習慣が原因で朝食を食べてこない子どもがいる。これを学校の手だけで解決することはできない▼例えば、子ども食堂のように、子どもの食事を支援する活動を地域の人が始めれば、学校と地域が一人の子どもをめぐって協力体制を作ることができると、町内会の役員や地域内の社会福祉施設、NPO法人などの間を駆け巡る▼子ども食堂ができると、毎回訪れて、食堂のスタッフの振り返りに参加する。食堂にこない子は、学校へ来ているか確認し、遅刻や欠席の場合は自宅に電話をする。次の食堂の時には迎えに行くという具合であった▼そして、町内会の会長が代わっても、自分が転動しても、その葬儀に駆けつける。こんな先生が私たちの町には存在していたんだと思わせる一コマだった。

(石)

HB

地域の町内会の元会長の葬儀に、地域内の小学校から転動した元教頭が参列していた▼この教頭はいう。子どものことは学校でできる限りのことはするけれど、学校は万能ではない。地域と学校が協力してこそ子どもの成長を支えることができる▼例えば、食事。貧困や家庭の生活習慣が原因で朝食を食べてこない子どもがいる。これを学校の手だけで解決することはできない▼例えば、子ども食堂のように、子どもの食事を支援する活動を地域の人が始めれば、学校と地域が一人の子どもをめぐって協力体制を作ることができると、町内会の役員や地域内の社会福祉施設、NPO法人などの間を駆け巡る▼子ども食堂ができると、毎回訪れて、食堂のスタッフの振り返りに参加する。食堂にこない子は、学校へ来ているか確認し、遅刻や欠席の場合は自宅に電話をする。次の食堂の時には迎えに行くという具合であった▼そして、町内会の会長が代わっても、自分が転動しても、その葬儀に駆けつける。こんな先生が私たちの町には存在していたんだと思わせる一コマだった。

特集

活動者の広げ方のススメ6

自分たちの活動として、より身近に感じてもらえるように



本記事では、新たな担い手発掘をめざして、市内各区・地域の工夫をこらした取り組みを紹介します。(「活動者の広げ方のススメ1〜5」は令和6年1〜4、7月号に掲載)

つばやきから新たな取り組みにチャレンジ

港区社協会長であり、弁天地の社協・連合振興町会・地域活動協議会の会長を務める上田哲夫さん、同地域女性部長の池西郁子さん、ネットワーク委員長村上しずるさん、地域活動協議会等で活動する浅井安則さん、見守りコーディネーターの竹内有紀子さん、弁天第3コーポ町会長の木村重治さん



▲弁天地域の方々と区社協職員

に、同地域独自の取組みである、ご当地版いきいき百歳体操の動画作成について、また、地域活動を始めたきっかけや心がけていること等をお聞きしました。

港区内11地域ではそれぞれ独自に地域福祉活動計画※を作成しており、令和5〜8年度は第3期計画を推進しています。令和4年度には、第2期計画のふりかえりと第3期計画に向けたワークショップを地域ごとに開催し、弁天地域での話し合いで「百歳体操の弁天地域バージョンの映像を新たに作成してみたい」という発言があり、今回の取組みにつながりました。

ご当地版百歳体操動画を作ろう

いきいき百歳体操は、映像を観ながらゆっくりと手足を動かす筋力づくりの運動です。弁天地域では、平成29年から毎週火曜日に実施しており、コロナ禍以降、時間を区切って2部制として継続しています。

毎回約20人が参加し、体力づくりやつながりづくりになっていく一方で、毎回同じ映像を観るため、参加者からは変化を求める声もありました。他市でもマスコットキャラクターが登場するご当地版が映像化されていたこと、大阪市でも吉本新喜劇のメンバーが出演する映像が作成・活用されていたことから着想を得て、弁天地域版をつくることになりました。

具体化に向けて、活動に関わる方々と区社協職員が打合せを重ね、令和5年の夏から作成を開始しました。毎週の百歳体操開催と合わせて、打合せと撮影を繰り返し、令和6年5月に完成を迎えました。

活動者・参加者みんなで映像出演

作成に携わった活動者からは「ワークショップの時にポロツと発言があったが、まさか実現できるとは思っていなかった」「撮影日には皆さんおめかしして来てくれて、出演してくれたほとんどの方が続けて参加しています」といった声がありました。

作成したご当地版百歳体操動画



▲YouTubeからどなたでも視聴できます

■「いきいき百歳体操 港区弁天版」作成のながれ

| 令和4年 きっかけ | 令和5年 企画・撮影・編集 | 令和6年 完成・活用 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 地域の話し合いで、「百歳体操の弁天地域バージョンの映像を新たに作成してみたい」との声があがる(計画冊子にも検討時の意見として掲載) | <ul style="list-style-type: none"> 具体化に向けて地域と区社協で打合せを重ねる 全体構成、ナレーション、誰がどの部分で登場するか等の役割分担を検討。参加者にも出演してもらえるよう調整 夏頃から冬まで約半年かけて作成(打合せ→撮影→打合せ→撮影を繰り返す) | <ul style="list-style-type: none"> 5月に完成・お披露目 区社協のYouTubeチャンネルに投稿・一般公開 毎週、上映しながら百歳体操を実施。参加者からも好評 |

※地域福祉活動計画とは、地域住民や社会福祉施設、社会福祉協議会など、社会福祉に関係する活動をおこなう者がみなで力をあわせて、「地域福祉を推進するために策定する具体的な活動及び行動の計画です」

■ 地域活動に関わるきっかけや思い / 活動を通してのエピソード

町会長を頼まれたことが地域への関わりのきっかけです。「やるからには楽しく」をモットーに活動し、今日集まっているメンバーをはじめ「皆さんに任せています」と言えるほど大きな信頼がある方々ばかりですので、皆さんから「これがやりたい」とあれば、その提案を大切に、やってもらえるようにしています。



上田会長



池西さん

日頃から無理なく活動に関わってもらえることや、やらされ感なく、一人でも多くの方が活動を続けてもらえるように意識しています。活動している皆さんには、一つの活動だけではなく、さまざまなことを互いに知ってもらえるといいなと思っています。担い手を増やしていくには、やはり直接声かけしていくことだと思うので、皆さんから感じた活動のおもしろさを伝えてもらえると、担い手が広がることにつながるとしています。それぞれの形で活動を継続してもらえるように、悩みやストレスを溜め込んでしまうことなく、何でも話してもらえるように心がけて取り組んでいます。



浅井さん

母親が認知症となり、いろいろな支援を受けたタイミングで、ちょうど地域でネットワーク委員を頼まれて、お世話になった分、自分もどこかでお返ししたいと引き受けました。ネットワーク委員長として、地域の見守り活動をすすめるなかで、少し前に見守り訪問をした方が孤独死してしまったことがあり、ものすごく辛かったです。これからも見守りを大切に、声をかけ合えるような地域にしていきたいです。



村上さん

町会長をしていた時に、百歳体操のスタッフにと池西さんから声をかけてもらって、「池西さんの頼みならやるしかない」と関わり始めました。地域活動に関わることで、これまで顔を合わせることも声をかけることもなかった方とつながることができました。私はこれが地域活動をする魅力だと思っています。



木村さん

私の場合はPTAの活動から始まり、今は見守りコーディネーターを務めて5年目になります。百歳体操へ継続的に来てくれている参加者で、実施場所の会館の3階まであがるのが一苦勞で、手すりを持ってでないとおぼろげな方がいました。でも、百歳体操を続けてきたことで手すりを使うことなく、元気にあがれるようになった方が何人かおり、「百歳体操を続けてやってきたから、体力ついたよ」「見て見て、手すりを使わなくてもあがれるで」と笑顔で報告してくれた時は嬉しい瞬間でした。



竹内さん

浅井さんと同様に、池西さんから声をかけてもらい百歳体操のスタッフに加わりました。百歳体操に限らず、弁天地域の皆さんが安全に、また活動しやすいように、すみのすみまでサポートするのが地域活動に関わるうえでの自分の役割だと思っています。

※取材当日は欠席のため、後日聞き取り



▲弁天地域の活動について、皆さんから熱い語りがありました(10月1日)

活動者を広げていくためのポイント

やるなら楽しく活動し、みんなで活動する

- 無理なく、10~15分でも参加しやすいように工夫する
- “参加して楽しい”をアピール!やるなら楽しく、やりがいを感じてもらえるように
- 関わるみんなに、他の活動も知ってもらい、支える輪を広げる

新しいことにチャレンジしやすい雰囲気づくり

- 提案しても受け入れてもらえやすい関係性や雰囲気づくりを大切に
- つぶやきや提案から打合せを重ね、カタチにできるよう取り組む

MAIDOにしよど

未来の西淀川区を異業種で一緒に考える

西淀川区



▲参加者で集合写真

出会う・知り合う・ わかり合う

西淀川区社協は、10月18日午後6時30分～8時30分に、西淀川区民ホールで「第3回MAIDOにしよど」に出会う・知り合う・わかり合う」を開催しました。コロナ禍の影響により5年ぶりの開催でしたが、会場には総勢144人の参加があり、第1部では「未来をつくる私たちの挑戦」として、3団体から発表があり、第2部では「西淀川区のまちを語ろう」をテーマにワークショップを実施しました。

今回の取り組みは、2か月に1回開催している「にしよどリンク」の拡大版として、普段は参加していない方の参加も広く呼びかけて開催しました。

にしよどリンク (異業種交流会)とは?

西淀川区を拠点とした企業や商店、NPO等各団体や地域活動者が集まり、情報交換やマッチングを図っています。また、西淀川区をよくしたい次世代のリーダーたちが思いを一つにリンクする場でもあります。

3団体から 取り組み発表

第1部では、3団体が挑戦している活動などについて発表しました。まず、大阪府立淀商業高等学校の3年生6人から、「令和6年2月に複数の高校と協力して、全国初の高校生による株式会社『AKINDO SPARKLE 株式会社』を設立しました。『美味しすぎる防災備蓄パン』をつくったり、廃棄予定のタイ

ルを活用した物品をビジュアル化し、商品製作、販売するなど、当校のほか工芸高校や工業高校とともに取り組んでいます。今後は、令和7年の西淀川区制100周年に向け、新商品を開発して届けたい」と発表しました。

続けて、一般社団法人社会的健康戦略研究所の柏木浩正さんから、官民で取り組む地域の魅力づくりについて、「アプリを使つてのまちづくりとして、ハッピーな場所・アンハッピーな場所をマップにし、アンハッピーな場所はハッピーな場所になるように改善していくような取り組みをすすめています。また、健康いきいき展に出展し、健康についてのワークショップもしています。今は、チームに地域関係者がいないため、一緒に協力してくださる方に入ってもらい、より地域の課題に沿った活動をしていきたい」と発表しました。



▲16班(4テーマ×4班)で話し合い

オンリーのもの 西淀川を めざして

第2部は、16班に分かれて①区制100周年について、②NEXT TO 100

ランは、令和2年～6年度の5年間を推進期間とし、『気づく』『知り合う』『助け合う』『届ける』『活かす』の5つのキーワードを設定しています。困っている人がいれば積極的に声をかけ、しんどい時は気軽に助けてと言えるような顔と顔の見える関係づくりをめざしています。来春には次期計画の策定を予定しているので、一緒に取り組みましょう」と呼びかけました。

年、③魅力発信レガシーマップ、④にしよどオリンピック2025(スポーツでもっと盛り上げたい)の4つのテーマに基づき、自由に夢を語り合いました。

福祉分野に限らない多様な人たちが自由な発想で話し合う場から、さまざまな形でのつながり・支え合いが広がることが期待されます。

ゆるやかな つながりが魅力

2部終了後、名刺交換や情報リレーの時間が設けられ、交流を深めました。

テーマごとに話し合われたアイデア(一部抜粋)

| ①区制100周年について | ②NEXT TO 100年 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● まちなかで音楽ライブ ● 何かでギネス新記録達成する ● こどもがやりたいことを実現サポート ● イベントを通じてみんなが笑顔になれる機会にする! | <ul style="list-style-type: none"> ● 住みたいまちランキング1位をめざす! ● 地域と学生のつながりを強くして、コラボイベントを開催 ● スマホの位置情報アプリを活用して、まちなかを使って楽しいことをする |
| ③魅力発信レガシーマップ | ④にしよどオリンピック2025 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 人の魅力が多い地域 ● 西淀川区のメタパス ● ドローンでまちを探検できる ● オンラインでもオフラインでもつながれる西淀川! | <ul style="list-style-type: none"> ● スポーツが苦手な人も楽しめるイベントに ● 外国籍の方とつながれる機会にする ● まちめぐりスタンプラリー ● 景品は企業や店舗から寄附していただく |

特集

ラジオ体操で手軽に運動し、ゆるやかにつながる

市内各區で、ラジオ体操会を始める地域や団体が増えていきます。短時間で参加しやすいこと、1人でもふらっと参加できることから、男女問わず気軽に参加しやすいプログラムです。

ラジオ体操には、「体型の維持」「血管を若々しく保つ」「呼吸機能を保つ」「骨粗鬆症の予防」「心身状態を良好に保つ」などの効果があると言われています。また、決まった時間に実施し、近所の人たちと一緒にこなうことで、顔見知りが増えたり、コミュニケーションをしたりと、ゆるやかなつながりづくりにもなります。



▲ラジオ体操の様子

ラジオ体操会のながれ

集合・準備

徒歩や自転車で集合し、1人での参加やご近所の方と雑談しながら参加。主催者は周囲に気をつけて音楽機器などを準備。

体操の実施

円をつくったり、隣同士当たらないよう広がってラジオ体操第1・第2をします。(計6分程度)

終了

ラジオ体操が終了すると、すぐに帰宅する方、出勤する方や雑談をしながら交流して帰る方もいます。

各区の取組み紹介

大正区

大正区泉尾東地域では、毎週金曜日の午前11時から実施しています。9月20日からスタートし、対象を限定することなく、幅広く参加できる場となっています。連合振興町会長の村岡洋三郎さんは、地域の西側にある町会のつながりが希薄になってきていることを課題に感じていました。「町会に入っていない集合住宅もあるので、閉じこもっている人もいないか」と思い、区社協と6月から相談を重ねました。そこで、ラジオ体操なら短時間なので誘い合って参加しやすいのではないかと、公園でおこなうことで見かけてくれた人が参加してくれるといいなと実施に至りました。開始後は、地域包括支援センターや見守り相談室等の専門職の参加もあり、専門職と出会える場にもなっています」と思いを語りました。



▲10月18日は10人を超える参加がありました

住之江区

令和4年度に区社協が中心に実施したシニア向けアンケート調査結果で、高齢者のお出かけ先として、公園が上位であったことや健康に興味を持っている方が多かったことから、令和5年9月から南港エリアの4地域において、さきしま地域包括支援センターが関わりながら、取組みを始めています。各地域では、実施する曜日を決めて毎週開催し、気軽に参加できる健康増進の場となっています。

9月19日には「ラジオ体操から脳と身体の健康の秘訣をひも解く」をテーマに講演会も地域包括支援センターと共催し、ラジオ体操がもたらす身体機能・転倒予防・認知機能の3つの効用や体操の各部分の効果等を学ぶ機会となりました。



▲南港エリアの4地域で曜日を変えて実施



▲講演会には40人近くの参加がありました

参加者の声

- 短時間で参加できて少しでも運動する機会となっている。
- ラジオ体操に継続して参加していることで、何度も顔を合わせて知り合い、友人が増えた。
- 地域にとらわれず参加できるので、活動の範囲が広がった。



特集

支える人を支える募金

令和6年度(第78回)共同募金運動 展開中!

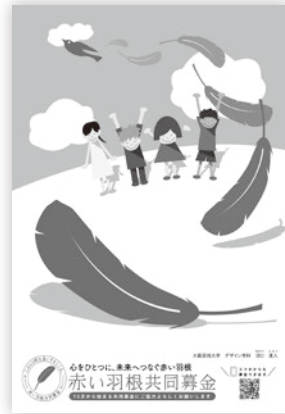
大阪府共同募金会

今年も10月1日から赤い羽根共同募金運動を「つながりをたやさない社会づくり」を共通助成テーマとして全国一斉に実施しております。昭和22(1947)年から市民が主体の民間運動として誕生しました。寄せられた寄付金は、みなさまの地域で困窮や孤立など助けを必要としている人たちを支援する、さまざまな活動に役立てられます。

10月1日には、大阪府内の各地で街頭募金及び広報・啓発活動が実施されました。今後も、各市町村にて募金活動を行ってまいります。大阪の地域福祉へのご支援ご協力をよろしくお願いたします。また、赤い羽根共同募金はホームページからオ



ンラインでの寄付も可能となります。引き続き、みなさまの温かいご支援、ご協力のほどよろしくお願いたします。



スマホからも寄付できます



| | | 大阪 |
|----------|-----------|----------------|
| 令和6年度目標額 | | 7億5千万円 |
| 内訳 | 一般募金 | 5億3千万円 |
| | 歳末たすけあい募金 | 2億2千万円 |
| 令和5年度実績額 | | 5億4,041万3,204円 |

募金運動について、詳しくは、大阪府共同募金会ホームページをご覧ください。

<http://www.akaihane-osaka.or.jp>

赤い羽根おおさか

共同募金運動の取組み①

天王寺区社協

天王寺区社協では、ボランティア活動を身近に感じてもらえることも兼ねて、例年10月に天王寺区上本町六丁目交差点周辺で、四天王寺・清風高等学校と一緒に街頭募金活動をおこなっています。今年は興國高等学校も加え、3校と一緒に街頭募金活動を実施しました。



この取組みから、自分たちが集めた募金がどのように助成され、役立てられているかを知る「赤い羽根教室」で勉強し、実際に共同募金が活用されている地域活動を見学して、活動者インタビューをするという福祉教育プログラムも展開しました。また、共同募金を知ったことで、共同募金についての動画を作成し、区社協のイベント開催時に上映したり、高校の文化祭で共同募金のブースを設置してもらえることにもつながっています。

◀赤い羽根教室



▲興國高校の文化祭での共同募金ブース (10月25日)



▲上本町での街頭募金活動 (10月1日)

共同募金運動の取組み②

市社協

市社協職員有志の29人が10月1日の夕刻、天王寺区上本町六丁目交差点周辺で、街頭募金活動をおこないました。この取組みは、市社協においても共同募金の助成金を活用して多くの事業を実施していることから、市社協職員が貴重な財源である共同募金の大切さを再認識するためにも、平成16年から毎年取り組み、今年で21回目を迎えました。

会社帰りの方や子どもたちなど、たくさんの方々のご協力により、4万3031円もの募金が集まりました。

また、10月1日にはなんばウォークのクジラパークにて、10月21日には四天王寺境内西重門付近にて、大阪府共同募金会が主催する街頭募金及び広報・啓発活動に市社協職員も参加しました。



風をよむ

新しい高齢社会対策大綱

大阪公立大学大学院生活科学研究科 教授 所 道彦

新しい高齢社会対策大綱が9月13日に閣議決定された。高齢社会における各分野の対策の指針を示すもので、6年ぶりの改訂である。

今回の大綱では、「就業・所得」「健康・福祉」「学習・社会参加」「生活環境」「研究開発・国際展開等」の5つの分野について、個別の施策の指針が示されている。たとえば、「健康福祉」では「持続可能な介護保険制度と介護サービスの充実」が掲げられ、「地域包括ケアシステム構築の深化・推進」「必要な介護サービスの確保」「介護サービスの質の向上」「仕事と介護の両立支援」が示されている。「持続可能な高齢者医療」に関連して高齢者の窓口負担割合の見直しについても言及されている。

この種の政策文書の特徴は、抽象的な理想を掲げつつ、総花的な点である。大綱では、「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる

よう、在宅医療や在宅介護の質・量両面での充実を含め、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を一層進めていく」と宣言されている。一層進めていくという方向性に異論はないが、地域包括ケアシステムの現状分析や理想とのギャップをもう少し説明すべきだろう。

また大綱では、「推進する」「促進する」といった言葉が100回以上登場する。「あれも推進、これも推進」と列挙される一方で、優先順位は明確でない。また、保険料や利用料を引き上げていけば、財政的に社会保険制度を持続させることができるかもしれないが、高齢者の生活の維持はどうなるのか。多くの分野に税金を投入するには、国民的な議論が必要となる。「指針」に加えて、国民の合意を得るための「道筋」をもっと説明してほしいところだ。

市社協

認知症になっても地域で安心して暮らし続けられる まちづくりを一緒にしませんか



認知症サポーターとは

認知症サポーターは認知症について正しく理解し、認知症の人を「特別な人」として見るのではなく、「ともに生きる人」という考え方をもって、認知症の人やその家族をやさしく温かい目で見守る「応援者」のこトです。何か特別なことをする必要はなく、地域で何か困っている人がいたら声をかけたり、お手伝いすることなども立派な活動の一つです。

認知症サポーター養成講座

認知症サポーターになるためには、認知症サポーター養成講座を受講する必要があります。講座では認知症の症状、認知症の人やその家族をサポートするための基本を学びます。受講後には認知症サポーターの証として“認知症サポーターカード”をお渡ししています。認知症サポーター養成講座はおとなからこどもまで、地域住民から金融機関・スーパーマーケットの従業員、学校の生徒など幅広く実施しています。気になる講座があれば、大阪市キャラバン・メイト事務局ホームページ内の「オープン講座情報」にて公開していますので、ぜひお問い合わせください。



▲認知症サポーターカード(大人用)



▲認知症サポーターカード(キッズ用)

キャラバン・メイトとは

認知症サポーター養成講座の講師は「キャラバン・メイト」が担っています。地域や学校、企業などで認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法などを伝え、認知症サポーターの育成をおこなうボランティアメンバーです。

キャラバン・メイトになるには「認知症キャラバン・メイト養成研修」を修了する必要があります。大阪市のキャラバン・メイト養成研修は大阪市キャラバン・メイト事務局が主催しています。

養成研修や大阪市内で活躍しているメイトのみなさんの活動の様子は、大阪市キャラバン・メイト事務局のホームページ内の「活動レポート」で随時更新していますので、ご覧ください。

問合せ

大阪市社会福祉協議会
 地域福祉課
 (大阪市キャラバン・メイト事務局)
 TEL 06-6765-7273

大阪市キャラバン・メイト事務局
運営：社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

☎06-6765-7273
06-6765-3607 info@hako-osaka.jp

安心して暮らせるまちをつくるために
 わたしたちキャラバン・メイト事務局は
 キャラバン・メイトの
 みなさんといっしょに
 認知症サポーターの輪を
 広げていきたいと考えています

メイト
 サポーター
 企業・地域

HP <https://www.osaka-sishakyo.jp/project/caravan/>

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

www.ms-ins.com



▲令和6年度第1回 認知症キャラバン・メイト養成研修 (8月13日)